

日時 : 平成16年11月6日(土)9時30分~10時45分
場所 : じばさん三重 5階 情報交換室2
出席者 : 委員 別紙出欠表のとおり
事務局 商工課 平林課長、永田副参事、駒田勤労観光係長、中本主幹、待井技師

1. 提言(修正案)

事務局から提言(修正案)及び概要版について説明(駒田係長)

<素案に対する各委員意見>

「kai-kou」について「委員の中には、協賛行事とすべきとの意見もあった。」とあるが、「あった」とすると過去形となりインパクトが弱いので「ある。」と訂正した方が良い。<山形議長>

「四日市港まつり」について「独立」と書いてあるが、誰でも明確にわかるよう「大四日市まつりとは別日程で開催する」という記述を追加していただきたい。<加納委員>

単に「四日市港まつり」の独立というだけでなく、独立して発展させるとした方が良いのではないか。<山形議長>

「名称」について、ぼやけたイメージとなっているので、たとえば公募して名称を募集するとか、本会議で新名称を提案するなどした方が良いのではないか。<田中(豊)委員>

名称を変更するというのであれば、提言であることから公募による方法が妥当であると思われる。<井上委員>

名称は公募するという提言内容でよいか。<山形議長>

意義無し。<全委員>

「郷土文化財芸能」について、各年のテーマ以外の山車が出演したいとする場合、勝手に出るということになるのか。<樋口委員>

テーマ別の出演はひとつの例であり、提言は企画書として考えていただきたい。<山形議長>

テーマを明確にすることで情報発信力を高めるため、メインの企画を強調する必要がある。ただ、テーマ外の山車等が出演したいという場合、出演の拒否は難しいと思われる。メインを明確にし、どのような形で出演できるかは実際のプラン作成の段階で考えていくことになる。<永田副参事>

「郷土文化財芸能」のテーマ別出演例の中で、地名のっていない行事(例えば虫送り等)について広く市民にわかりやすいように地名も入れたほうが良いのではないか。<山形議長>

四山文協では夏祭りは任意出演することに決定している。<田中(久)委員>

夏祭りにも参加という山車と秋祭りのみの参加としたい山車に意見が分かれた。拘束するのはどうかということで任意出演となった。<永田副参事>

四山文協では市民を取り入れた祭りを大きくしたいと考えており、提言に沿って実現できるよう、四山文協で検討を進めたい。<田中(久)委員>

四山文協の中でも各山車の意見は異なり、一方では市民は夏祭りには山車等に出てもらいたいという意向が強い。どうしたら両者が納得できるか本会議で検討を重ねた結果がこの提言の内容となっている。ただ、毎年夏祭りに出たいという山車等は妨げないが、前端的にこの企画をアピールしていくことで、今年出演する山車、しない山車が市民に明確にわかるようになる。毎年出演している山車については、毎年出るものと市民も認識するはずである。四山文協の現状も踏まえた形でこの提言は作られたものであると思う。<井上委員>

第5回の会議において提案させていただいた、骨子には希望する山車の出演は妨げないと書かせていただいたが、本会議において提言するのではなく、実行委員会にて議論すべき内容であると判断し、削除させていただいた。<駒田係長>

「郷土文化財行列」に対する提言について意見を述べていただきたい。<山形議長>

提言であることから、実際の企画については実行委員会に任せて、提言はこのままでよいと思う。

<田中(豊)委員>

「諏訪太鼓競演」へコンテストを取り入れることについて、前に話したように以前コンテストの審査基準でもめた経緯があり、諏訪太鼓進行組合としてコンテストはできないという結論となった。コンテストではなく、諏訪太鼓以外の他の太鼓も発表できる場を設けるとしていただきたい。<保井委員>

「コンテスト形式としてはどうかという意見もあった」としてはどうか。<加納委員>

現行の企画である「諏訪太鼓競演」を発展させるというのであれば、ただ太鼓を競演するだけでなく、市民の皆さんに太鼓を体験していただく場を提供するという方法もあると思う。また、諏訪太鼓は教育の一環として子供たちに教えている。だから皆で力を合わせて合同演奏をしようということで「諏訪太鼓合同演奏」を行っている。したがって、子供たちに競わせるのは抵抗を感じるという意見が多く、現在の流れに逆行することになるので難しい。<保井委員>

コンテストにより競いあうということも大事であるが、コンテストにこだわる必要はない。四日市流でいくというのであれば、それも良いと思う。また、諏訪太鼓だけではなく、他の太鼓も広く参加を呼びかけるというのは良いことだと思う。排除の精神では市民主体のまつりにはならない。<西前委員>

「諏訪太鼓に限らず広く参加を呼びかけ、現行の企画を拡大発展させる。その際コンテスト形式も考えられる。」としてどうか。<井上委員>

諏訪太鼓がコンテストは難しいというのであれば、コンテストという表記は外すべきではないか。

<田中(豊)委員>

個人的には祭りは楽しければよいという考えなので、コンテストは必要ないと考えている。ただし、おどりフェスタのような新しい企画については、行事参加者が増加し安定するまでは、コンテストによって参加者を呼びかける必要があるとは感じている。<杉町委員>

諏訪太鼓競演のコンテスト形式の部分は削除することでよいか。<山形議長>

意義なし。<全委員>

郷土文化財芸能で5年に1回出演していただくというのは、委員の皆さんはこれで了解しているということによいか。<藤原委員>

意見がすべてが出尽くしたわけではないが、提言としてはこれを採用する。<山形議長>

毎年出演したいという山車があるなか、この提言内容で実現ができるのかが心配である。<藤原委員>

他の地域の方が出ていただけるかどうかという方が、可能性としては未知数である。ただ提言であることからこれでよいと思う。<井上委員>

5年周期はどのように決めたのか。<西前委員>

ひとつの例であり、5年という周期に固執するものではない。<山形議長>

周期を明確にし、四山文協で毎年出演山車のスケジュールを決めて、祭りの際に当年度だけではなく、次年度以降の山車出演予定を掲示して市民に周知することも良いと思う。また山車の参加が多い年、少ない年がないように考えることも必要。<西前委員>

前回の議事録の中で、「おどりフェスタ」は名古屋の「にっぽんど真ん中祭り」より「後発」であると記述があるが、「おどりフェスタ」のほうが以前から行っているので訂正願いたい。また、成功している各地の祭りの仕掛け人を呼んで話を聞いたかどうかという意見もあったが、土地柄や祭りの成り立ちが違うことから、他の祭りをそのまま四日市へ取り入れても成功するとは限らないと思う。それよりも自ら足を運び、祭りを実際に見てくるべきである。少なくとも3回は見て、実際に祭りを体験してきて欲しい。<杉町委員>

「後発」という言葉はにっぽんど真ん中祭りの後発という意味ではなく YOSAKO ソーランの後発という意味で言った。<西前委員>

「後発」は削除させてもらおう。<駒田係長>

<今後の予定>

事務局から説明<平林課長>

11月11日に山形会長から市長に対して提言をさせていただく。

その後、具体的な大四日市まつりの内容については、実行委員会において提言を尊重し企画することになる。

また、前回の実行委員会において、例年実行委員会の設置は4月から翌年3月までであったところ、準備の期間を考慮して1月から12月までと変更した。来年1月には実行委員会を立ち上げ平成17年度大四日市まつりの内容について議論していきたいと考えている。